

61

13.10.21



文化 13.10.18

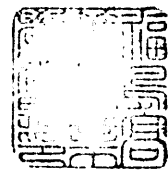
第二課長

田

文化事業部長 岡田兼一殿

福島庶第一〇四號
昭和十三年十月十四日

福島高等商業學校長 伊藤仁吉



據テ貴部ヨリ御補助ヲ得テ滿洲國及中華民國ヲ視察致候本校講師石橋哲爾ヨリ右視察報告書別紙ノ通り提出ニ付及進達候也

第一課ノ二

福島高等商業學校

昭和十三年十月十四日

H-0552

0208

鮮滿支旅行報告書

福島高等商業學校講師

石橋哲爾

鮮滿支旅行日誌

七月九日(第一日)晴

午前六時發上り列車にて福島を出發、同八時五分郡山發磐越西線に乗り換ひ午後一時十五分新潟着直にバスにて埠頭に駆け付け滿洲丸に乗り込み同二時出帆す 海上平穩

七月十日(第二日)曇

ガスあり、船は時々氣笛を鳴しつつ眞直に日本海上を進みつつあり、夜半より追風となりしも船少しく揺る

七月十一日(第三日)晴

夜來追風なりし爲豫定より約二時間早く午前六時北鮮清津に入港す。足を大陸に印せし門出なれば上陸直に清津神社に参拜す新開の元

氣横溢せる市内を見學して天馬山に上り都市計畫實行中の新市街漁港等を望む

午後五時發佳木斯直行列車に乗る途中古茂山にセメント會社あり車上より眺む尙其の奥に茂山あり鐵鑛石を産す將來之を清津に搬出して近く成立する三菱經營の清津製鐵所にて製煉する計畫なりといふ。清津の將來は益多幸なり

七月十二日(第四日)晴

朝七時半牡丹江着此地今や人口十五萬に垂んとし新興の都市にて生氣殊に潑々たり林口青山地方にかけて日本移民村斷續す移民村には必ず小高き所に神社を祭れり而して自營の設備亦整頓せるを見る何處まで行きても野には秋草美しく咲き亂れ時々飛ぶ。拓務省の第一次移民村彌榮を過ぐる頃より雨となり佳木斯着後も止まず夕方市中を見學す洋式宏壯の建築多し

七月十三日(第五日)晴

午前六時出發昨夜一夜降り續けたる雨の爲め街路の泥濘は時々乗れる馬車の車軸を没する有様なり我は御者を叱叱し御者は馬を鞭

捷して漸く松花江の碼頭に至りハルビン行海星號に乗る時に八時直に出帆江す河水の混濁せるは南の黄河揚子江と同様なり連江口に寄港往復用石炭を積み込む此地河岸に黒き小山と見えしは石炭の山にてすべて鶴岡炭坑より運び來れるものこの炭坑は昭和十一年に匪襲ありしも其後さる恐れなしといふ。
午前十時半ハルビンより下江する滿洲國江防艦隊に遭遇す威容堂々たるものなり午后一時湯原に寄港す客の乗降荷物の積卸あり西北方に見ゆる山地は匪賊の巢窟なりといふさればにや乗降の客の荷物及身體を検査する巡警の周到綿密さは帽子の中腰の圍りボツケツト等いやしくも物品を隠匿し得る餘地は完膚なきまでに觸れてその携帯の荷物は大小を論ぜず之を解き開きて打ち振る等甲板より眺むる我等をして時に面を反けしむるものありされど斯くせざれば密輸の悪習を根絶し匪賊の混入を防ぎ得ずとありては蓋し止むを得ざるに出づるものか。
午后三時大森岡を過ぎて竹簾嶺に寄港例により乗降の賑かきを繰り返へして出帆船は日に向ふて益々西に進む。

午後五時依蘭縣宏克力に着く此の地穀物の産地なり北岸彼方に金谷農場あり産米の成績見るべきものありと。
この東方奥地は例の土龍山匪狀尙心すべきものありといふ。今宵は十五夜ばかりの月にや東嶺より上りて船と共に進む時に山上にあり時に山腹に掛り或は江底に沈む。左手の小山平かになりて天地開くる所にて倭肯河松江に注ぎその先にて牡丹江亦この江に合流すこの四角地帯に依蘭あり、電燈煌々として埠頭に輝く、さもなく松花江岸電燈に恵まれる地は佳木斯と此處と哈爾濱の三ヶ所なりといふ。此地舊三姓の地にして市街は埠頭より半里の奥に在り。
七月十四日(第六日)曇時々雨
午前五時起床既に小艇程の舳甲板を飛び廻れり兩岸の平野に生れるもの人の香を慕ふて船に來れるものか。
行けど行けど洋々たる大江行く手は實に水天に連る景色、船は最上の上を行くが如けれど水は濁水にして徒らに滔々たるのみ。
朝八時方正に寄港日本人の上陸する者多し縣城は二里の奥といふ。四頭立又は五頭立の荷馬車埠頭を通過す、縣城に行くものならん

が實に絡繰として續く、されどこの雨の爲め道路の泥濘は想像だも及ばざる難澁さればにや埠頭に掲けられたる宣傳の看板に曰く「一人愛路萬象享福」と蓋至言也。
同十時十五分通河を過ぐ午后五時木蘭縣を發す。新甸あたり江上漁船多し宜なり此地魚の名産地といふ、同八時十五分日は松花江に沈む。

七月十五日(第七日)晴

午前五時太陽既に輝輝として八紘明亮なり岸よりは行々子の聲しきりに船窓に流れ込む、例の通り濁水にて漱口洗面し甲板に立つ北岸は一望涯なき平原、其處には點々として倭き柳樹あり、その柳樹より柳樹へと移り飛ぶ郭公の姿まづ眼に入る、聲も福島の御山あたりにて啼くものと同様なれば誠になつかしく感じたり、船の進むに驚き水を離れて飛び立つ鴨の群等何處に行く事や頸を伸べて東方に去るもの多し
同九時半船は愈々待望の哈爾賓埠頭に着く種々の検査を通過して上陸時、午前十時、直に我が總領事館を訪問す、大陸科學院、博物館、元の東清鐵道俱樂部等を見學す。

七月十六日(第八日)晴

黒河及滿洲里等特別區域旅行の手續は治外法權廢後滿洲國警察にて取扱ふこととなりしにより直ちにその手續を完了して許可證を受領す

哈爾賓神社、忠靈塔に參拜、志士の碑二烈士の碑に敬意を表し孔子廟、極樂寺、傳家旬魚市場、キタイスカヤ街、哈爾賓驛伊藤公記念地、露人墓地、太陽島、少年訓練所等を見學す。

七月十七日(第九日)晴曇一定せず

この賓北線の沿線は全くの平原にて周圍に山を見ざる地方多し、且つ匪賊なき處故農村部落にも之に對する防備らしきものを見ず文字通りの王樂道樂土なりと、
白家驛より山形驛にてモンベ姿の若き女性五人程列車に乗り込む、内二人は子持なり、北安まで日用品買入れの爲め行くものにて何れも昨年移民として渡滿せし人々なり。
北安遼吳を過ぎて瑛環まで餘す所二里半と云ふ地點にて我等の汽

車に故障あり止る。

七月十八日(第十日)晴

いろいろな厚意を受け午前十一時二十分愈發車午後三時黒河に到着す。

アムールを隔てて蘇聯邦ブラゴイチエンスクを指呼の間に望む、大体この地は木材と砂金の都市なり。「黒河省は特別區域故記事を省略す」

七月十九日(第十一日)晴後曇雨

此の地方午前二時に黎明訪る、同九時出發北安に向ふ午後二時遜吳を過ぐ此地にも少年訓練所あり、山には白樺檜等の樹木茂り河水亦清淨なり
午後六時半北安着同七時直に乗り換の豫定なりしも汽車遅れ漸く七時四十五分着齊々哈爾行は發車時刻を五十分間延期して待期中なりし爲直に乗り移るや七時五十分發車す
同九時五分尙薄明の中に克山を過ぐ、此地は往年馬占山の反せし處にして北滿の穀倉と呼ばるる豊饒の地なり、夜中〇時四十分齊

々哈爾に到着す。

七月二十日(第十二日)晴

標高六百メートルの高原、朝の冷氣甚し

午前八時滿洲電信電話會社にて技師長天野清氏の講演を聴き、同會社、龍沙公園、遼江、城内及馬占山舊宅等見學す。

午後四時十分齊々哈爾發、同五時四十分昂々溪にて元の東清鐵道線に列車に乗り換へて興安北省滿洲里に向ふ。夜中大興安嶺を越ゆ、車中の寒氣甚し。

七月廿一日(第十三日)晴

朝五時札幌木特を過ぐ、昨夜の寒氣の爲めか腹痛を覺ゆ、このあたりの平野は秋氣清く朝霧籠む、放牧の家畜多し、五時二十分日出づ。

同六時海拉爾着蒙古人多く我等の列車に乗り込む。札來諾爾には露天掘炭坑あり車上より眺む、同十時五十分滿洲里に着く、露西亞式建築にて小奇麗の市街なり、此地滿洲國の西北端にして、蘇聯國境に位し、標高六百メートルの海拉爾齊々哈爾等よりも尙四十メートルも高き高原地帯なり。

本市は一名臚瀆と稱し創設以來僅に三十五年其の間國旗の變ること四回といふ、人口約一萬日本人はその一割約一千名居住すと云ふ。

憲兵隊の許可を得て滿蘇國境を視察し露西亞帝政時代の貴族連なりと稱する露人部落等をも視察す。

「この地も特別省故以下記事省略す」

七月廿二日(第十四日)晴
正午滿洲里出發す海拉爾より内蒙古を経てハロンアルシヤンに出づる豫定なりしも大雨後さて交通杜絶中なり不得止其のまま昂々溪に戻る。夜九時半大興安嶺の頂上を通過す。

七月廿三日(第十五日)晴
朝六時四十分昂々溪着直に楡樹屯行に乗り換へ此處にて再び四平街行列車に乗り換ふ。午后四時五十分白城子着一泊す。此地昔の洮安にして少しく西に出づれば王爺廟あり中村大尉遭難の所なり。

此の邊より洮南一帶に互りて以前は土匪の巢窟なりしも今回の旅行に於て其れは昔の物語に過ぎぬ程人民皆其の度に安んぜる状を見る實に皇威の宏大さをしみじみと感ず。

七月廿四日(第十六日)晴
午前八時五十分發列車にて出發午後八時新京に到着す。
七月廿五日(第十七日)晴
滿洲中央案内所長奥村義信氏より滿洲事情につき講話を聴く。

この日見學場所は滿洲中央銀行、國務院、大同學院、南嶺の戰跡、清真寺、忠靈塔、皇居御造營地、西公園等なり。

七月廿六日(第十八日)曇
午前十時半新京發午後一時十五分吉林着
滿鐵吉林用度支所長福原昌龍氏の「吉林につきて」の講話を聴く
午後二時半日本人小學校に於てコレラ豫防注射を受く。文廟、北山等を見學し市内を視察す。

七月廿七日(第十九日)曇
午前八時より滿鐵事務所に於て吉林鐵道局産業課長横山重起氏の「鐵道自警村につきて」の講演を聴き正午吉泰線列車に搭じて出



發す。此の線は將來滿洲國に於ける重工業地帯との由、車上より沿線を視察し午后八時十分奉天着

七月廿八日(第二十)晴

奉天神社、忠靈塔に参拜し國立博物館、北大營、北陵同善堂、北塔、城内及吉順系糸房等を見學す

七月廿九日(第二十一)曇

此處より錦州を経て承德に行く豫定なりしも熱河地方水害の爲鐵道の破損個所多く當分復舊の見込なしとの事故午后二時五十分發の京奉線列車に乗り直ちに北京に向つて出發す。夜十二時山海關着此處にて入國につきての諸手續を済まし停車約三十分間にて發車愈々北支那に入る。

七月三十日(第二十二)雨

塘沽あたりには昔ながらの長鹽の山見ゆ高粱のアンペラ掛けたるものあり掛けぬもあり、白河に浮く船は畑の中或は林の上にもその帆を張る、軍糧城にては「慶祝徐州陥落」なるピラ民家の壁に貼付されあり。

午后一時北京正陽門驛に着く大使館の小島君出迎ひらる。東安市場を見學す。

七月卅一日(第二十三)晴

萬壽山、故宮博物館、天壇、北海、雍和宮、文廟等を見學す。

八月一日(第二十四)晴

午前十時半發奉天行列車にて出發す、午後二時半天津東站着總領事館員の出迎あり多分北京大使館より何等かの通信ありしものか、驛の前に忠靈碑あり、昨夏事變勃發の際此處にて戦死されし某某中佐以下の英靈を祭られしもの詣て参拜す。

市内見學

八月二日(第二十五)晴

南海大學の爆破の跡其の他を見學し日本租界、英國租界、佛國租界等を見學す。

八月三日(第二十六)晴

大連行龍平丸といふ七百噸の小蒸汽船に乗り込み午前十時白河大連碼頭を出帆す。

八月四日(第二十七)晴



午後四時大連着

八月五日(第二十八日)晴

旅順の戦跡見學の爲め午前九時大連常磐橋出發バスにて旅順に向ふ同十時着

白玉山表忠塔、爾靈山、戦利品陳列館、東鷄冠山北保皇望臺、博物館、松樹山、水師營等を見學す。

八月六日(第二十九日)晴

滿鐵本社調査課岩永秀男氏の滿鐵に関する講演を聴き、大連神社、忠靈塔に参拜後埠頭、碧山莊、油房滿洲資源館、星ヶ浦、露店市場、連鎖商店街等を見學す。夜十時發奉天行列車に乗る。

八月七日(第三十日)晴

朝七時三十分渾河着此處にて撫順行列車に乗り換ひ同九時撫順に到着す。直に炭坑事務所に至り同所員の案内にて一通り撫順炭坑を見學す。午後二時奉天に歸着

八月八日(第三十一日)晴

午前八時奉天發安奉線列車に搭じて出發車上より沿線を視察し午

后十時朝鮮平壤着一泊す。

八月九日(第三十二日)晴

平壤神社に参拜、牡丹臺、乙密臺、玄武門、箕子墓樂浪古墳墳博物館等を見學、午後三時十二分發同九時五十分京城着

八月十日(第三十三日)晴

朝鮮神宮に参拜し南大門、倭城臺、博文寺、昌慶苑、昌德宮、バコダ公園、總督府廳舎等を見學し午後十時十分發釜山行列車にて出發す。

八月十一日(第三十四日)晴

朝六時大邱着永川行に乗り換ひ七時十分永川着此處にて再び浦須行に乗り換ひ慶州に下車す。此の地にて新羅王朝文化の跡を訪ね博物館等を見學す。再び汽車にて佛國寺驛に行き参拜見學を済まして後山を越えて石窟庵に到り大佛其他の石佛を拜す。

夕刻釜山に到着同夜十時出帆の關釜連絡船金剛丸に乗り込む。

八月十二日(第三十五日)晴

朝七時半下關入港上陸

福島高等商業學校

午前九時二十五分發東京行急行列車にて下關を出發す。

八月十三日(第三十六日)晴

午前七時半東京驛着、午後七時四十分福島驛着

八月十四日(第三十七日)

登校の上歸任の報告を爲す

以上

H-0552

0215

講演報告

福島高等商業學校講師 石橋哲爾

一、福島猶興會に於ける講演

（本會は福島縣農會長大島英二氏の主宰する研究團
体なり）

講演題 滿洲雜感

日時 昭和十三年九月七日午後六時ヨリ

場所 福島ビルヂング三階會議室

聴衆 同會員約三百人（會場滿員）

H-0552

0217

講演の要旨

會つては北海道と云へば熊を聯想した様に滿洲と云ふと匪賊といふものが頭に浮んだものでした。其の滿洲を私は度々視察旅行して居りますが、近來の滿洲は非常に好くなつて居ります。建國後の視察は今度が二度目ですが、各方面とも非常な進歩發展をして居りました。

第一に喜ばしいことは拓務省の第一次移民國の彌榮村（三江省）の人について調べてみた所によると、この移民國の入滿當時は交通の不便、土匪の襲撃等で相當の苦勞を爲し犠牲者も出し、強い痛手を蒙つたこともあつたので前途を危ぶまれたが其後當局の指導よろしきと團員一致の奮闘努力と、滿洲國の治安が日一日と好轉して收穫も増加し今年からは一家の生活費を差引いても少しの餘剩を見ることが出来た。だから最早前途は大丈夫です。このことでありました。成程田野に立つてその作物を一見しても稲も粟も大豆も羨ましい程の實りで内地でも及ばない位の出來榮でした。

第二に嬉しいことは國內の治安が完全に維持され安心して生活が

出来るといふことが彼等三千万民衆の等しく喜ぶ點であります。以前は特産物見當ての馬賊や、建國當時日滿兩國に衝突して居た支那の敗殘兵等の所謂兵匪が三十萬と稱せられたものでしたが、現在では一萬或は其以下の僅七千位に減少して居るこの事です。それも日滿軍の爲めに東部三江省の一角或は吉林省の奥地密林地帯等に追いつめられて昔日の様な活動は毛頭出來なくなつたのであります。加ふるに一方では保甲制度が整頓し集團部落が作られ自警團が強化され、民間に散在せる武器は回收され宣撫工作が行き届くといふ状態です。私には佳木斯から汽船でハルビン迄遊江致しましたこの航路は以前は土匪の襲撃多く最も危険とされて居たので餘程躊躇致しましたが、此頃はさうした心配は皆無で、從來賊の丸除けの爲めに船の甲板を鐵板を以つて圍つて置いた設備さへも撤廢してると聞かされたので、安心して乗船してみました所事實は誠に明かなもので、沿道の市街や村莊墾墾等に共同防備の跡は見られませんが、現在は其等を利用しなければならぬ様の事はなくなつて、住民は皆呑氣に畑

に田に山に河に出で思ひ思ひに働いて居りました。三日二夜に互る北満松花江の航行は飽聲は勿論怪しい人影さへも見る事が出来ず眞に無事太平に哈爾濱に着く事が出来ました。之は即ちこの國の治安のよく維持されつゝあるさいふ前述の好い裏書と存じます。

第三に心強く感じたことは滿人は無論の事、在滿の同胞の誰からも不平不満の聲を聞かなかつたことです。従來はよく所々で不平さか不満さか云ふものを時々聞いたものでしたが、今度は到る處で滿洲は好い處だ、早く来て幸福である。將來はどうか一人でも多く渡滿してこの幸を享けらるゝ様に御盡力を願うと云ふ様な意味の言葉に移民諸君からも民間或は官廳に居らるる諸種の階級の人達からも聞きましたので、滿洲は好くなつたと云ふ私の觀察はあまりその的は外れて居ないことと存じます。この滿洲國禮贊の聲は滿人からも聞きました、其れは前述の治安の維持されてること諸税金賦課の公平になつたこと、金融の圓滑、貨幣制度の確立、通信網及交通機關の發達等を重なる理由に擧げて居りました。

斯くの如く滿洲は建國以來日滿一徳一心の精神を以て王道樂土建設に邁進して有様は内地人も滿人も半島人も實に眞剣なものがあり

ますので、迅速に其の目的に近つきつつあります、之が爲め國家は充實して各々愉快なる希望に生活し朗かな氣分が漾つてゐるのだと存じます。何れの觀點よりするも滿洲は誠に好い國になりつつあると感じました。

以上

福島高等商業學校

→ 福島高商信陵會主催に於ける講演

講演題 「没法子」は何處へ行く

日時 昭和十三年九月十一日午後六時より

場所 福島市公會堂

聴衆 約貳千五百人（會場満員）

H-0552

0220

講演の要旨

「没法子」^{ゴッパイアツ}といふ言葉は滿洲人又は支那人の常に用ゐてあつた、又用ゆる言葉で、其の意味は「止むを得ない」「仕方がない」など云ふ一種あきらめの言葉で驚ありません。見ようによつては又彼等の人生觀の代言とも思はれます。御承知の通りの國情が幾千年昔から繰り返されて今日に及んだ支那であります、最近まで其の版圖と思はれ言語風俗政治形態亦大体共通で來た滿洲國人は矢張事毎にこの言葉を以てすべてを解決して其の生を終るより外に道が無かつたのでした。

即ち最近の例を以て見ましても彼等は張作霖、張學良父子二代の専政に呻吟し、その苛斂誅求の下に餘儀なく漸く生き延びて参りました、其の擄取の形相は我等のとても想像にも及ばぬものであります、例へば農民が一ケ年間の汗の結晶である特産物を買ひ取るにしても支拂ふ代金は張政權發行の紙幣であります、之は市場にてはその半額の價值にも通用しない反古紙の様なものです、然し人民が若しこの紙幣での取引は嫌だ、現銀で支拂つて貰いたいと要求でもすれば

事實その者の首が飛ぶかも知れませんが、止むを得ず一圓の値のものを一圓の紙幣で買らねばならぬ羽目となります、一圓の物を一圓の紙幣で賣るのに他に不服はあるまいと思はる、かも知れぬが、その一圓紙幣なるものが前申す通り市場では五十錢にも通用せぬものごすれば、人民は一圓の品を五十錢で掠奪されるご同様ですが、之に對して泣寝入より外に道はなく没法子の一語に千萬無量の感慨を托してあきらめ、明日から又營々として働くのです、掠奪した張家ではこの品を一圓のものは一圓の現金で諸外國と取引致しますからつまり反古紙で巻き上げ現金で賣ることなるので濡れ手で粟以上の暴利を貪ることとなります、國民はそれご知りつつも没法子と云つて指を咬へてあきらめるより外に道はありません、國に巡警があつても掠奪者を逮捕してくれどもなし、軍隊が市に充満して居ても一度馬賊の襲撃あるや誰よりも先に逃げ出して物の役には立たず、若し逃げ出さぬごすれば賊ご妥協して却つて人民を苦しめるごこととなり、法律は嚴然ご控へて居るが賄賂公行の朝にあつては寧ろ正を邪とする陷阱でしかないでせう、斯様な國柄ですから不平不満

があつても意見を述べることには出来ず、恐ろしいものに對して保護を求むることにも出来ず、すべては没法子であきらめるより仕方がなかつたのであります。

然るに滿洲國が建設されるや、其の當時約三十萬と稱せられた馬賊及土匪の類は、僅々五六年の間に約三分の一の一萬に激減し、それさへ今や一地方の隅に追ひつめられて餘命幾何もなく將に清掃されんとして居る有様です、治安が斯く立派に維持されるに至つたのは、彼の保甲制度が整ひ、集團部落が作られ、自警團が強化され、宣撫工作が行き届いた結果と、一方日滿一徳一心の大精神に則つて王道樂土建設を理想として努力邁進し従前の弊風を打破して公明な政を敷き、負擔の公平を計り、貨幣制度の確立、通信網及交通機關の發達等其他あらゆる方面に一致の奮闘を續けて居る賜と存じます、斯くの如く滿洲國は總べての點に於て整頓し誠に不平不満なき朗かな生活をする事が出来て文字通りの王道樂土となつて居ります、されば以前の様に事毎に没法子の一語を以て、そのやるせ無き無限の感情を押しへ付けなければならぬ様な虐政は夢想だも出来ず、不

平不満は勿論なく、又何等の不便も恐怖も無くなつて仕舞つたのです、滿洲は全く好い國となりました、之からの滿洲國では恐らくこの言葉の必要はなくなるでせう、扱扱て然らばこの言葉「没法子」は一体何處へ行くでせうか。

以上

第一課長 札

米内 事務

會計課長

收支

検査

出
13.10.26
13.10.26

要再回

昭和十三年十月十一日

會計課長 殿

文化事業部第二課長

講演及視察費定額戻入方ノ件

昭和十三年七月中大阪外國語學校校長葉山萬次郎ノ申請ニヨリ同校學生十七名教授二名滿洲國視察手當トシテ金壹千八百圓也ヲ(教授一名ニ付金四百圓學生一名ニ付金四拾圓)昭和十三年度對支文化事業特別會計事業費ノ項講演及視察費ノ目ヨリ支出引率者同校教授吉野美彌雄ニ交付シタル處學生參名病氣其他ノ事故ニヨリ參加セサリシヲ以テ右參名分ニ對スル視察手當金百貳拾圓也返納方別紙ノ通同校校長ヨリ文部省ヲ通シ申出有之タルニ付該金定額へ戻入方御取計相成度

参考

- 一、小切手日附及番號 昭和十三年七月二十七日わ第一〇九號
- 一、小切手額面金額 金壹千八百圓也
- 一、返納金額 金百貳拾圓也
- 一、返納入 吉野美彌雄
- 一、返納場所 大阪

以上

外務省

日本標準規格B5

外務省

日本標準規格B5

H-0552

0223

61

馬交分

收書 13.10.23

文 部

文化 13.10.10 事業部

文化事業部
大語專五號

昭和十三年十月八日

第二課

川口副理事

昭和十三年十月十日 授受

外務省文化事業部長殿

滿洲旅行不參者ニ對スル視察手當補給金
返納ニ關スル件

今般標記ノ件ニ關シ大阪外國語學校ヨリ別紙ノ通申越有之タルニ付テ
ハ裝ニ御交付ノ視察手當返納方可然御取計相煩度

文 部 省 專 門 學 務 局

局長

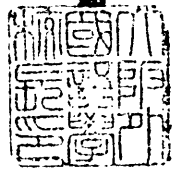
H-0552

0224

教第 七、八 號

昭和十三年九月二十八日

大阪外國語學校校長 葉山 萬次郎



外務省文化事業部長 峰 谷 輝 雄 殿

滿洲旅行不審者ニ對スル觀察手當補給金返納ニ關スル件

拜啓時下秋冷之候ニ有之候處愈々御清穆之段奉慶賀候
陳者過般當校支那語部及蒙古語部第三學年生徒滿洲修學旅行ニ際シテ
ハ種々御高麗ヲ蒙リ御蔭ヲ以テ所期ノ目的ヲ達シ候段奉深謝候然ル處
曩ニ申請致シ候參加生徒中病氣又ハ止ムヲ得ザル事項出來ノ爲參加取
止メ候者左記三名有之候就テハ本三名分ニ對スル外務省文化事業部ヨ
リノ觀察手當金計壹百貳拾圓也返納致度候間乍御手数返納手續方可然

大阪外國語學校

御取計相煩度御報告旁々此段及御依頼候也

教 具

記

支那語部第三學年

乾 忠 雄
木 原 峰 夫
山 本 長 藏
以 上

H-0552

0225

公 信 案

別紙納入告知書添付ノ事ト

外 務 省

以上

納金ニ関スル吉野教授宛返納告知書一
葉(額面百圓拾圓也)及送付ニ付同教授ニ交
付、上該金日本銀行ニ納入セシメラレ被此
段中進ス

主信	1	1
附	甲	
	乙	
	丙	
	丁	
備考	61	

18.10.29

文書課長

文書課發送

昭和拾陸年十月廿日發送

主 任 第二課長 五

文化二 普通部 第八五五號 昭和拾陸年拾月廿日 附屬

受 信 人 名

大阪外國語學校長

葉山萬次郎

吉野教授ニ對スル返納告知書送付ノ件

昭和三十二年九月十八日附教第七八附貴後ヲ以テ
御依頼ニ依リ貴校學生乾忠雄外ニ名ニ對
スル滿洲旅行不参加ノ為、視察年當返

名 件 名 人 信 受

名件録記

名人信發

辨名文化事業部長

正校(原稿)

淨書

別紙

外 務 省

(18.9.4)

20 137

H-0552

0226

18.11.14

第四高等學校

第二課

文化
B.11.14

第四二五號

昭和十三年十一月四日

第一課

昭和十三年十一月四日

昭和十三年十一月四日

長

第四高等學校長 菰田 萬一

外務省文化事業部長 蜂谷 輝雄 殿



本年七月二十八日附文化二普通第六七九號ヲ以テ當校教授望月勝海ニ
對シ滿支視察手當御交付相成リ去ル七月末日任地出發豫定ノ視察ヲ了
シ歸任致候間御了知相成度猶別紙報告書提出致候間及御回付候也

H-0552

0227

旅行日程及視察狀況概要

○七月廿一日

午後十一時金澤出發。

○八月一日

大坂驛乗換、午後七時半下り関到着。関釜連絡船、十時半出帆。

○八月二日

午前六時釜山上陸、急行のぞ午前七時半發車。平壤にて日没。

○八月三日

零時四十分安東發車。橋政附近にて拂曉、滿洲風物に接す。車窓より山容を見るに朝鮮に比して頗る厚肥、雨裂少く、土に非ずして豐饒なり。午前八時奉天着、直ちに北京行急行に乗換。新民附近水害の跡なり。特に柳河の氾濫の跡、凄じ。平野の末に支那石山(石柱)を迎へ、更に石門山脈南端紫荊山を迂迴して錦縣到着。下車、錦州省公署附屬博物館を訪問して当地方の事情を聞く。馬車にて城外見学、遠代建設の錦州塔は破損甚だし。阜新奉天兩發の影響を受け工業都市として活況を帯びんとしつゝあり。

第四 高等學校

○八月四日

再び省公署訪問、省次長森田成之氏その他に會見す。午後二時半錦縣發、山海関に赴く。錦西を過ぎ靈蘆島を車窓より見る。土地よく耕作され人口多く流石廻廊の位置なりと思はる。热河との省境に岷々たる山地あり、國境に近づけば山上に多くの烽火台見ゆ。山海関下車。

○八月五日

滿洲国綏中縣國境辦事處長山口氏の案内にて驢に乗りて郊外周家溝に至る。地質學上の興味あればなり。帰途「天下第一園」に至り、市巾を見学す。四時、北京行急行に乗る。コレラの防疫検査嚴重を極む。秦皇島は大邑、北戴河は淋し。古治は南溧表田の中心地、南平は意外に寂しく、兼唐山は殷津。蘆台、塘沽間塩田の中に日没。天津を出てより窓外出水甚だし。十二時北京正陽門車站到着。

○八月六日

大使館に参り上海自然科学研究所北京辦事處の所在を聞く。北京大学第二

日本標準規格1列4

3

H-0552

0228

地蔵館なる同處を訪問。富田達博士より此地最近事情及び支那に於ける科挙の遺狀等と聞く。午後國際觀光局に赴いて日程の相談をなし、官殿跡を通り西華門前より北長街を行き北海公園に遊ぶ。更に景山の前より拐棒胡同の二樂莊に至り、旗人住宅を邦人向に改造せる模様を見る。

○八月七日

午前七時正陽門驛發車。内城をめぐって西直門に至る。昌平縣匪賊に獲られたりして整、戒嚴重なり。万壽山の塔など朝靄の上に浮ぶるを見つゝ、南口に達す。居庸関、青龍橋を徑て唐莊まで万里長城の遺跡を見事あり。唐莊にて下車、懷柔州瀾盆池の形州を觀察して、帰途の列車を待つ。その向、駐警戒の皇軍兵隊と語る。十八時三十分正陽門到着。王府井、東安市場等に赴く。

○八月八日

洋車にて外城の天壇見物す。内城にもどりて宮殿見物す。中央公園より西華門をくわり武英殿、大和殿等々。東安市場を再訪す。十九時四十五分正陽門發車。奉天行急行なり。開札改札甚だ厳重、支那人は盡く荷物を改め身体検査す。女客に対しては女巡查之を行ふ。邦人に対しては特にあやしと見られし者のみ。廊坊附近にて日没。

第四 高等學校

○八月九日
山海關の検査は簡單なり。錦縣にて乗換へ、承錦線にて義縣に至る。遠代の古塔はじめ文化古きを思はしめる建物あり。新義線に入り清河辺門を入れ、當ての熱河省内にて内蒙古のフロントなり。東華新にて下車し、バスにて阜新縣城に至る。高粱繁茂期として此附近鼠賊横行、~~難し~~し居る如し。

○八月十日

降雨のため土默特左旗王府訪問不可能となり縣公署に至る。副縣長と同車、海州の滿洲炭砒合社阜新探砒所に至り、東洋のガールと誇る阜新老田の説明を聴取し、孫家灣なる南初期

日本標準規格JIS

の露天掘を見学す。十五万人目標、十五年計画の都市経営など新興の
気旺なり。阜新縣城に帰還す。

○八月十一日

午前八時五十分東阜新驛發。阜新炭満載貨車との混合車なり。次驛
新邱は老坑南谷の由来稍古きと駅前の聚落より察せらる。車窓より喇嘛
廟など見つゝ横谷に沿ひて進み新立屯着。乗換、二時間餘待ち午後二時發
車。泡子附近南拓風景を見る。彰武を過ぎ馮家驛を出れば沙漠地
帯にて小起伏多き草原所々黄白色の砂地を見る。人家は驛前のみ。
伊胡塔附近より夜に入り警戒最重なり。午後十時半通遼着。下車。

○八月十二日

降雨。午前通遼市内を見学す。五頭の牛にひかせ悠々西行する車多
し。興安南省警備軍、蒙古文字の看板などあれど蒙古に於ける
漢民族植民地の飛地とは思へぬ程、漢民族化せり。午後二時十分
通遼發。昨と似たる沙漠地帯を通り午後五時鄭家屯下車。

第四高等學校

○八月十三日

午前雨中鄭家屯市内見学。通遼に比して市況閑散たり。
午後八時、齊ハ爾行に乗車。王爺廟の学校へ歸り蒙古人
など乗車して、流石に内蒙古に接せる地帯なりと思ふ。

○八月十四日

車中泰來附近より明るくなる。雨、洪大なる草原、稀に島あり。紅
橋にて嫩江を渡る。出水多く湖澤廣し。民家の草葺屋根この辺より
目立ち来る。午前八時齊ハ爾驛下車。馬車にて四料隔てし町
へ行き先づ警察廳に赴き國境特別地帯旅行許可證を貰ふ。
官邸に龍山總領事訪問、事情を話して戴き、それより省公署、龍沙
公園等市内を見学。午後四時十分昂々漢行列車に乗る。昂々漢乗換、
濱洲線に入りて國際色の特に濃きを覚ゆ。成吉思汗驛日没。

○八月十五日

午前六時海拉爾驛着。下車せず。同驛南側一驛向カーテンを下

東面各

日本標準規格JIS

し車窓よりの望視は禁止せらる。洪大なる草原を行く。時に大放牧群を見る。乗客にも蒙古人あり。砂丘地帯も通過す。札来諾爾炭礦を過ぎ、丘陵に入れば滿洲里まで近し。下車して國際列車の出發を見送り憲兵隊へ行きて國境見学の許可を受け、馬車をやとひて行く。

○八月十六日

午前滿洲里市内を見学。正午發車。嵯崗附近にて南側に層氣樓を見、遊牧群、オボ、草原の草花、包など珍し。海拉爾を過ぎて丘陵の谷に入り、初め灌木を濕地に見、次に丘上に白樺を見る。分水嶺に達せざる中に夜となれり。

○八月十七日

朱家坎附近にて目覚む。昂々溪にて輕油車に乗換へ更に榆樹屯にて乗換。齊々哈爾より寧年まで概ね濕地、盛に草刈を行ふ。泰安に近づきて急に耕地なり、即ち北滿の黒土帯に入りしために、活潑なる新拓殖風景なり。沿線蘇炳文叛乱による皇軍戰蹟の標多し。南、祥泉の丘陵を見、その上に克山附近には火山ニ克山の偉容を仰ぐ。午後四時北安着、市内見学、草葺の商家少からぬも日新し。

第四高等學校

○八月十八日

午前十時二十分發車、乗降客取締仲々嚴重なり。耕地たちまち去つて草原の丘陵、その上に烏雲和爾冬吉火山を見る。分水界に至り漸く森林を見る。夕方着きし孫吳にては驛前に建築工事盛に行はれ居たり。孫吳より瓊瑋を経て黒河迄、車窓からの望視禁止さる。午後十時、黒河驛着、町まで一里程あり。

○八月十九日

早朝宿舎を出て市内見学し、黒龍江畔に对岸ブラゴベスケンスクの臺を見る。校多し。午前八時五十分黒河發車、孫吳迄四時間カーテンを下す。龍鎮附近、南拓風景として稀に蕎麥畑を見る。北安、白家間モンペー着用の日本婦人乗車す。齊北、北黒、嶺北の諸線、いつれも沿線の南拓景面白く合衆団西部と鉄道の關係を思はしむ。白家以南夜に入る。

日本標準規格1列1

○八月二十日
呼蘭に近づいて眼覚む。松花江を渡り濱江驛。傳家甸に近ければ満員の満人客大方下車す。午前八時哈爾濱着。モストワヤ街のフリスト・ヒチローに行きて今後三日程の相談をなし、それより博物館をはじめ市内各所の見学をなす。

○八月廿一日
哈爾濱傳家甸埠頭午前十時出帆。松花江を下航す。巴彥烏河鎮に寄り薄暮には木蘭縣に達す。哈爾濱に買出しに行きたるらしき荷物を買ひて下船客多し。船は兩岸に立てる識標によりて絶えず蛇行して進む。

○八月廿二日
通化縣、方正縣は夜中に過ぎて小羅爾密附近より朝となる。夜中乗客多く定員四十名(二等)を遙かに超ふ。湯原縣はじめ各寄港地に日本兵守備し居りて同様の念や難し。今日に至りて寄航地(の人数は)中乗客に朝鮮人少からず。夕方着きし清河鎮にて鶴立崗炭を積込む。鐵橋工事盛に行はれつゝあり。薄暮佳木斯に到着。市況甚だ盛なり。

第四高等學校

○八月二十三日
佳木斯市内を早曉見学し午前九時發車。やがて丘陵に入り遠くに樹木の鬱蒼たる山を見、日本の風景に近し。沿線概ね草原。時に草刈する満人を見る。十一時近く彌榮着。大きな山間盆地。大荷を買ひし満人多數下車し軍装に似たる日本移民も見らる。驛前は雜然たる草葺屋根の人家。驛附近に限りネギ・トマトその他多量栽培あり。干振は驛前に人家なく馬車二十台程待てり。乗敷降彌榮に倍す。西流する川に緩く傾きし廣き丘陵地帯なり。驛を出て右窓遙かに町を見る。移民の家もはばば車窓近し。草葺土壁。切妻平入。炕の煙瓦の煙突。皆一栴の姿なり。數戸集りて塙を圍らし國旗掲揚柱高く聳ゆ。閭家、俵背、杏樹等各驛は開拓風景と共に珍しき警戒風景なり。高原を登りつめれば勃利。それより山地。稀に水田を見る。分水嶺を越えてミツタテ、ハギ、オミナヘシ、ノギク、マツムシウ等の咲乱れる高原。竹々の濕地にはカマ多し。青山驛木材積出し、朝鮮人多し。日本移民の部落この辺にてはトタン屋根を用ふ。他は彌榮附近と同じ。林口

日本標準規格JIS

は孫吳と同じく形成中途の町なり。林口龍爪間も移民部落多し。龍爪は驛前全部移民部落なる点珍らし。やめて日没、樺林にてはハルプ工場の灯明了し。午後九時牡丹江驛着、濱綏線に乘換。初の豫定にては牡丹江より寧安を經て清津に出るつもりなりしが汽車水害にて不通なれば哈爾濱にもどることにせり。

○八月廿四日

玉泉附近にて目ざむ。ロシア風建築の木立の中に見ゆ。三等乗客中にはロシア人も少からず。午前九時十分哈爾濱着。十時四十五分雨中登車、新京に向ふ。耕地よく南は北滿の耕地に見馴れし目には木立が多くと感ぜらる。午後四時二十分新京驛着、下車。

○八月廿五日

馬車とヤと七馬路元國務院内大陸農科学院地質調査所訪問。滿鉄より移管の事情はじめ各種専門の話を聞く。午後二時半新京驛登、この辺より平房子多し。新台子附近にて日没、奉天驛乗換、午後十時半登、臨時列車急行なり。

第四高等學校

車急行なり。

○八月廿六日

安東午前五時、税関検査は早晩なれば朝鮮に入りて行はる。北鮮の民家の藁屋根は南鮮のものより角張れり。午後一時四十分京城着、下車。

○八月廿七日

京城驛午後二時十分登。釜山着、釜山より蘭釜連絡船。

○八月廿八日

午前七時十五分、下ノ関入港。山陽線急行乗車。大政乗換。午後十時五十分登。

○八月廿九日

午前七時半、金澤驛到着、歸校。

日本標準規格JIS

視察旅行中の感想若干

一、旅行者の皮相的觀察なれども、支那の風物は時間的変化甚だ
少きやうに感ぜらる。そのため例へば古き紀行書の如きが、何時までも
好個の案内資料となり余は大いにこれにより利便を獲たり。然るに
滿洲にては支那との対照著しく、誠に日進月歩、景觀などたち
まち変化すると感ぜられたり。

一、北支に於て感ぜしことは、事変下の現在日本人の懐きつゝある支那の特
來についての見解の皮相的樂觀的過ぐるに非ずやと言ふ点なり。

一、北支、北滿を通じ、ソ連に所僻陬に駐屯する皇軍部隊に対し感謝と
同情の念やむ能はず。尤一線に立つ警察官、鐵道従業員に対しても
その辛苦をよく認めてやうねばならぬと思はる。

一、滿洲に於る一般日本人の生活が餘りに内地延長なること寒心にたへず
とよく言はれ居るが余も亦これに同感なり。日系滿洲國官吏の派手な
な日常生活振りなども考ふべき点なきに非ずやと思はれたり。

第四 高等學校

一、旅行者の目に映ずる普通施設が日本人本位なることや、露路骨に過ぎずや
と思はる。例へばニミリの駅名(補註)は、駅名の諸揭示の文
章、ラウドスピーカーの言葉など。漢字などの使用法も滿洲人本位にした
らばと思はる。町の名もなるべく音讀で通じ訓讀が本位(例へば
新京の羽衣町の如き)を避けるが民族協和の手近き一歩ならずや。

旅行者として日本人本位の施設にて多し利便を感じたれども、かゝる
皮相的部分は滿洲人の面子を立て、やま方々日本のためならずや
と思はれたり。

一、日本人旅行者の自然風物に対する冷淡に驚く。余は視察の目的上常に
窓外の風物を觀察せるが、他の日本人旅行者は必ず雑誌(主として「キング」)
を耽讀するが、情眼を養ひ、稀に談笑するのや。畢竟、瀧あり瀬あり如き
盆石的風景を美しとするに馴れて、大陸的な原野乃至耕作景の美を
未だ理解するに至らざるものゝ如し。

日本標準規格JIS

地理學 第六卷 第十二號 (昭和十三年十一月) 別刷

阜新縣の記

— 東洋のザール・内蒙のフロンティア —

望月勝海

H-0 5 5 2

0235

地理談話室



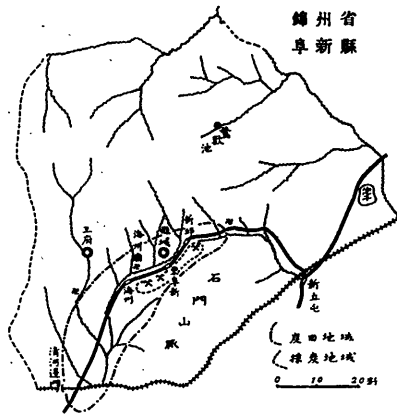
阜新縣の記

(東洋のザール・内蒙のフロント)

今年八月中旬、滿洲支那觀察の命を受けて旅する私は北京より錦縣で錦承線に、更に義縣で新義線に乗換へ、新興の評判高く東洋のザールと誇る阜新を見學した。山海關以北、遠く西北の省境には峻々たる山地——その上に烽燧臺の立つ姿はこの地方獨特であらう——も見えながら、車窓の近くはよく耕され、加ふるに錦縣・義縣では近代の古色蒼然とした高塔を望んで、この遼西地方の文化の古さを

味はつたのであるが、義縣から大凌河を渡れば、高梁島の赤土にもやうやく一抹の荒涼の影の着むがうかゞはれ、清河邊門で柳條邊鎮を越えて内蒙古の阜新縣に入ったのである。
阜新縣とその西の朝陽縣とは現在は錦州省に入つてゐるが近くまで熱河省に屬した。元來山海關より續く鞍山・興城・錦西・錦縣・義縣の各縣は熱河地方と遼東灣とに挟まれ、狹義の滿洲と支那とを結ぶ咽喉として特別な意味を持つてゐた。滿洲國となつて上記諸縣と共に同じく瀋陽省より北鎮・盤山・台安・黒山・彰武諸縣を、熱河省より阜新・朝陽の二縣を割いて錦州省が作られた。省内で彰武・阜新・朝陽三縣のみ長橋外に存在する。この地方はもと蒙古の放牧地で農地開墾の歴史は古くない。即ち阜新縣が設けられたのは光緒二十九年(一九〇三)、縣公署が現在の地に移されたのが宣統三年(一九一三)、それでも阜新縣は同時に吐默特左旗であり、背後は興安西省の庫倫旗・奈曼旗に續いてゐる。
漢蒙兩民族の分布境の錯雜さは現在縣旗の分布によく示

されてゐる。即ち吉林省内に郭羅爾新旗、龍江省内に吐默特旗・伊克明安旗、遼江省内に郭羅爾新旗があり、反對に興安西省内に開魯縣・林西縣、興安東省内に通遼縣



がある。のみならず遼寧省と並行に傳統に従つて滿族自治行政を行ふ所もあり、かゝるものが熱河省(省)に九旗、錦州省に二旗も阜新縣の吐默特左旗はその一である。即ち

地理談話室

一六七

此地方は滿族地の漢民族地化の最後の一步手前のステージを示すのである。蒙古人に對する行政だけを族公署が行ひ、旗と縣とは行政區域が重複する。縣の人口二十萬(康熙二十二年十二月)の約五分の一(牧野副縣長の談による)が蒙古人で、現熱河省の各縣や朝陽縣よりその割合はよほど多いと言ふ。旗公署は縣城の西約二五軒の王府に置かれ、王は旗長といふ官更でその下に參軍官(日采官更)その他の役人のあること普通の旗と異ならぬ。

今日では耕地よく開けて、呼倫貝爾や興安西省に行はれる如き規模の放牧その他の蒙古的風景は見られない。商業を懐念し農耕に不得手な蒙古人は廣い牧地のなくなつた今日いかに生活してゐるのであらうか。然し土地を所有するは蒙古人で、漢民族は永租權を有するのみ。こゝに近き將來に解決を殘された多くの問題がある。大雨その他の故障で世襲官更たる旗長のゐる王府に自動車を驅る豫定は遺憾ながら實現されず、鐵路の近くの喇嘛寺以外には内蒙古らしい景観に接せず、泡子方面の滿人の發利とした開拓風景を見たりして、貧困の蒙古人よ何處へ行く、と言ふ感嘆を深くしたのみである。それにしては滿洲中央部に殘された

郭羅爾斯旗や熱河・察哈爾の一部と共に内蒙古の最前面に
位する所として、又蒙古では海に一番接近した所として興
味深からぬを覚えた。

奉天から錦縣へ行く旅人は曠野の末に迫り来る一山脈を
見る。これを石門山脈とする。阜新盆地はこの山脈の背後
に在り、盆地中軸の低地が珠璣紀堆積の炭田で、東は石門
山脈の花崗岩片麻岩類、他の方面は丘陵性山地をなす砂岩
類で劃され、明かに盆地の成因は構造的地である。阜新炭田
内でも早く発見採掘されしは新邱で私共もその名を知る
こと既に久しい。即ち光緒二十三年発見され京奉鐵路局が
採行し後に日支合辦の某会社の經營に移り更に滿鐵に譲渡
され、滿鐵は康徳元年滿洲炭礦株式會社(いはゆる滿炭)
の設立と共に之を現物出資として提供した歴史を持つてゐ
る。今日では新邱の外に高徳・太平・五龍・平安・孫家灣
等で採行され、特に孫家灣では大規模に露天掘が行はれつ
ゝあり、上記諸礦區を海州にある滿炭阜新礦業所が統括し
てゐる。炭田は清河邊門外より新邱に至り延長約七〇料、
幅最廣二〇料、埋藏量四十億噸と稱されるが、現在よく採
掘され又採掘されてゐるのはその東北端である。全滿の炭

坑は無慮その他滿鐵經營のものを除いてすべて滿炭の手で
採掘されるが、その滿炭が一番力を入れているのがこの
阜新炭田の開発である。その進展にともなつて、錦縣に石
炭液化工業その他の事業が勃興しかけて居り、積出港とし
て登瀛島の重要性が再び云々されて來た。なほ程遠からぬ
北票の石炭は炭質がコークスに適するので悉く製鐵用に供
され、北票の町でさへ一般的用途には阜新炭が使はれると
言ふ。

緩い鹽味の盆地底を汽車が走つてやがて停つた海州驛は
引込線の非常に多い大驛に拘らず人家は殆どなく不思議な
氣を起させ、次の東阜新驛から品の中をバスで揺られて縣
城へ行く。たいていの地圖に此縣城が記入してなく陸地測
量部二十萬分一阜新の趙家屯の場所に相當する。崩れ果て
た土壘を圍らしその街路に面する家並も立派でないが旅
館・カフェー・料理店など邦人相手の看板が著しく目立つ
てゐる。次の新邱驛前にはさうやかな滿人街があつてその
由來のやゝ古い事を示す。全體として今日の阜新の評判に
對してこれら繁榮發達の衰弱さは驚くばかり、勿論これは
炭田開發が着手されたばかり鐵道開通したばかりの内蒙の

一隅として當然である。縣城から眞直ぐな垣々たる道を行
けば約七料で品の中に立派な建築がある。これが都市計
局と滿炭の事務所、此處を中心に十五箇年計畫で人口十
五萬を目標とする都市が建設されること。

私は今度の旅行で滿洲東北部に牡丹江・佳木斯・北安・
孫吳など幾つかの政治軍事都市の新生の姿を見たが、此處
でも abroad に尖端的文化景觀が誕生しかけてゐるのであ
つた。都市計畫の中樞附近には既にアパート風の數棟の社
宅が出来てゐた。廣い敷地を持つた日本兵營も昔ながらの
海州廟もこの附近にある。川の對岸に渡れば目立たぬなが
ら工人住宅の數塊があり選礦所・發電所の高い建物が其觀
變化のトップを切つてゐる。海州の事務所の門には哨兵が
立ち孫家灣露天掘事務所には電氣鐵條網をめぐらした嚴重
さ、その他各部の物々しい警政は見馴れぬ風景である。こ
の海州對岸の地は將來阜新驛が出来、東阜新・海州兩驛は
貨物驛になるとの事である。然らば城内はさびれるかと言
ふと、鐵道への最捷路として庫倫旗・奈曼旗方面の物産が
近頃出廻つて來たし又炭坑従業員の遊び場として持こたへ
るであらうと言ふ。將來はいざ知らず現在では廣い地域に

新邱・阜新・海州・孫家灣等々の諸中心があり、これらを
結ぶ交通機關として、晴れれば埃に、降れば泥濘に悩ま
れながら會社が定時に運轉する九臺のバスが人々の足とな
つてゐる。

變る滿洲・變らぬ支那の感じを深くした私は數年後の再
遊時の變化を夢みつゝ阜新に別れて新立屯より通遼へ向つ
た。その後で商工省地質調査所石井清彦技師が地質調査に
赴かれたさうであり、又縣内某所(特に名は秘されてゐ
る)滿洲で一番有望視される油藏地に日石大村一藏技師、
滿石内藤雄二郎技師の調査が行はれし由を新聞で知り、歸
路には大陸科學院地質調査所でこの地方の地質圖を見せて
戴いた。地質調査の暇なく勿々阜新を立去つた私はいま
強く先輩方の調査された結果についての御教示を願ひして
ゐるのである。

この小さい見聞記を草した機會に、私はこの旅行の費用
の大半を支出されし外務省對支文化事業部に對し感謝の意
を表したいと思ふ。(九月十七日)

〔望月勝海〕

地理學 第六卷 第十二號

一六九



61

13.12.14

第二課
第八高等學校學

文化
13.12.14
課長印

發第三七七三號

第一課ノ二
申
昭和三十二年十二月拾貳日接受

官帳記入

昭和十三年十二月八日

第八高等學校校長小松原隆二



外務省文化事業部長殿

昭和三十二年七月二十八日附文化ニ普通第六七五號ヲ以テ申越相成候
滿支方面視察ニ關スル報告ノ件去ル九月十一日出發同方面視察旅行
終了十月二十五日歸任仕リ候間日程及視察概要添付此段及報告候也

H-0552

0238

第八高等學校

二十五日 大連發—哈爾濱着
 二十六日 哈爾濱視察
 二十七日 哈爾濱發—新京着
 二十八日 新京發—吉林省—吉林發—新京着
 二十九日 新京視察
 三十日 新京發—奉天着—奉天發—錦縣着
 十月 一日 錦縣發—承德着
 二日 承德視察
 三日 承德發—北京着
 四日 北京視察
 五日 北京發—大同着
 六日 大同發—張家口着
 七日 張家口發—北京着
 八日 北京視察
 九日 北京發—張家口着
 十日 張家口發—北京着

第八高等學校

昭和十三年
 九月十一日 名古屋發—敦賀着—敦賀港乘船
 十二日 船中
 十三日 清津着—清津發—城津着
 十四日 城津發—咸興着
 十五日 咸興（興南）視察
 十六日 咸興發—京城着
 十七日 京城發—仁川着—仁川發—京城着
 十八日 京城發—開城着—開城發
 十九日 奉天着—奉天發—撫順着—撫順發—奉天着
 二十日 奉天視察
 二十一日 奉天發—大連着
 二十二日 大連發—旅順着—旅順發—大連着
 二十三日 大連視察
 二十四日 大連發—旅順着—旅順發—大連着

H-0552

0239

第八高等學校

十一日	北京發 天津着
十二日	天津視察
十三日	天津發 濟南着
十四日	濟南視察
十五日	濟南發 青島着
十六日	青島視察
十七日	青島乘船
十八日	上海着
十九日	上海視察
二十日	上海發 南京着
二十一日	南京視察
二十二日	南京發 上海着
二十三日	上海乘船
二十四日	長崎港着船 長崎港發 門司着 下關發
二十五日	名古屋着

H-0552

0240

第八高等學校

一 視察ノ概要

日滿支三國ノ協調融和ガ東洋平和確立ノ基礎ナルハ贅言ヲ要セザル所ニシテ彼我ノ交^渉益々頻繁ヲ加フルト共ニ帝國ノ使命ガ如何ニ重且ツ大ナルカヲ親シク目撃聞知シテ其ノ認識ヲ深メタルト共ニ當校卒業生二百餘人ガ同方面ニ於テ何レモ其ノ持場ニ精進シテ活躍シツ、アル實狀ヲ視察シ其ノ活動ニ期待スル所多キト共ニ戰局ガ何時ノ日ニ收マルベキカ尙豫斷ヲ許サザル今日今後戰局ノ拾收ハ懸ツテ建設ノ如何ニアリトスレバ單ナル復興ニアラザル此ノ建設ノ困難ガ戰爭ヨリモ遙カニ大ナルヲ想フ時教育ニ對スル責務ノ一層大ナルモノアルヲ想フモノナリ

以下視察ノ概要ヲ摘記スレバ

第八高等學校

奉天 醫科大學 奉天市公立國民優級學校
 故宮殿 國立圖書館 博物館
 同善堂 北陵 東陵 北大營戰蹟
 奉天八高會臨席
 旅順 工科大學 高等公學校 博物館及旅順戰蹟
 大連 滿洲資源館 碧山莊 築港
 大連八高會臨席
 哈爾濱 工業大學 醫科大學 ハルビン學院
 哈爾濱八高會臨席
 吉林 師道高等學校 吉林營林署 吉林ダム
 吉林八高會臨席
 新京 建國大學 大同學院 大陸科學院
 憲兵隊 鐵道局 商工協會 南嶺戰蹟
 新京八高會臨席
 承德 稅務監督局 避暑山莊及寶物館
 孔子廟 喇嘛寺

第八高等學校

朝鮮 高周波重工業株式會社 城津公立女學校
 城津 朝鮮窒素株式會社各工場
 興南 興南八高會臨席
 本宮 興南八高會臨席
 咸興 興南八高會臨席
 京城 朝鮮總督府 朝鮮軍司令部 京城大學及同大學豫科
 德壽宮
 京城八高會臨席
 仁川 仁川港
 開城府廳 京城大學藥物研究所 博物館
 藥用植物標本室 專賣局人考館
 滿洲國 石炭露天堀 液化工場 龍鳳堅抗
 撫順 撫順八高會臨席

第八高等學校

南京 日本總領事館 貢院ノ跡 明孝陵 中山陵
光華門、中山門等ノ戰蹟 觀象台

以上

第八高等學校

中華民國

北京

特務部 北京特別市公署
(文教部)

國立北京大學工學院 同師範學院(中等部小學部幼稚園)

紫禁城 天壇 先農壇 孔子廟 萬壽山

北海公園 景山 盧溝橋戰蹟

北京八高會臨席

大同 晉北自治政廳 上華嚴寺

張家口

大境門 龍泉寺 雲泉寺 李公祠 大汽碼頭 各租界

天津

中日中學校 南開大學戰蹟 太明湖 釣突泉

濟南

特務部 千佛山 豐田紡織工場 砲台公園 飛行場 江灣鎮 大場鎮戰蹟等

青島

特務部 砲台公園 飛行場

上海



文化事業部
直専一〇四號

第一〇二

本

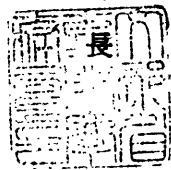
Handwritten signature

昭和三十三年三月廿六日



昭和十三年十二月二十四日

文部省専門學務局



外務省文化事業部長殿

滿支旅行報告書送付ノ件

今般山口高等商業學校ヨリ兼ニ貴部ヨリ旅費ノ補助ヲ受ケ支那貿易科生徒ヲ引率シ滿支見學旅行ヲ遂ケタル同校教授田中稻穂ノ旅行報告書ヲ提出相成タルニ付別紙ノ通及送付

省 部 文



61

教發第一〇二號

昭和十三年十二月十五日

山口高等商業學校長 岡本一

外務省文化事業部長 峰谷輝雄 殿

滿洲旅行報告書送付ノ件

謹啓愈々御多祥奉慶賀候陳者本校支那貿易科生徒滿洲見學旅行實施ノ際ハ多額ノ御補助ヲ辱ウシ以御座課定ノ通り無事見學ヲ終へ多大ノ効果ヲ收メ爾校致候段感銘ノ至ニ奉存候就テハ御來示ニ基キ引率教官田中稻穂教授旅行報告書御送付申上候條御査收被下度候先ハ不取敢右御禮旁々御報告迄如斯御座候
追テ病氣及家事ノ都合ニヨル不参加者六名分補助金貳百四拾圓也ハ本校曾訂課ヨリ御返金申上候條御査收被下度右申添候
敬 具

H-0552

0244

旅行報告書

暑中休暇を利用して本校支那貿易科生徒を引率し朝鮮、滿洲及び北支の視察旅行をなし得る機会を與へられたのは誠に欣快であつた。別紙の日程を豫定したのであるが其中熱河省承德は當時降雨による鐵道不通のため中止の餘儀なきに至りしを以て割愛し北京滞在を延長した。その他は全部豫定通り實施し待た。旅行の主体が學生にあつて經費の關係と交通、治安等の關係上活動を著しく制限され、奥地へ足を踏み入れる餘裕なく主要地のみを視察に止つた事は事情上止むなしと雖今一息と云ふ憾を痛感せしめられた。旅行の順路に従つてその概略を記述するが觀光に類する事は餘暇を利用するに止め主として産業部門の調査及視察に努めた。

一、關東州

門司より海路大連に來た。この経路によつた事は滿洲及北支に關する豫備知識を與へらるゝに好都合であつた。滿鐵の諸機關を訪ねて說話を聞き材料を蒐集した。特に滿蒙資源館は適切な施設であると信ずる。其他油房（舊式新式共）埠頭、港内、苦力收容所等を見學した。旅順の戦跡を尋ねては轉た感慨に堪へぬものがある。一般の風物も餘程内地とは異つて居る。

二、北支那

北支と云つて天津と北京のみである。大連から海路天津に着した。船が洶水の白河に遡る頃から風物は嶺に一變して先づ支那なるかなの感を與へられた。廣大なる平原、洪水の名残を止めた耕地、貧弱乍ら平和らしき民家、鹽の堆積ある鹽田等著しく眼を惹く。

イ、天津 白河遼江の途上、英米各國の工場を散見し、日本の工場の現在せる或は建設中なるを見るにつけて淡い悲喜の感情が往來し國際都天津近きを思はせるが、各國の租界を見て一層の感銘がある。然し何れの租界よりも帝國の租界が活氣横溢せるを見て心躍るのである。

今次の望戦の跡特に燦爛の跡を見ては皇軍の絶大な威力と苦心とに萬脛の感謝と信頼の念を禁じ得ない。官民各方面の在留民各位と談ずれば昨夏事變勃發當時に於ける奮闘活躍を知り今後に對する大なる抱負をも知り得た。北支を背負つて立つと云ふ旺盛なる氣概を感得せしめられた。經濟事情の概観が出來、物資集散の現況、特に棉花取引の實況等を見事に見聞し得た。當地に於ては不幸にも降雨に際會して視察に多大の不便を來たした。

ロ、北京

古き王城の地で政治と文化の中心であるが近代産業の見るべき物はない。此所でも軍の威力と邦人の進出と活躍が著しく目に着いた。

軍の特務部、滿鐵の調査所、産業研究所、朝鮮銀行支店等を訪問して特に經濟方面の實情を教示された。直撫に關する實際活動の一場面を見たのであるが如何にも頼りない民衆であると感じた。

承德の不可能なため生じた日程の餘裕を利用して郷土山口聯隊の奪戰地八達嶺に勇戰の跡を弔ひ長城を見同時に蒙古の警見をなし得た事は意外の收穫であつた。

北支は半變中或は直後と云ふべきで未だ整備されて居ない。治安の確保は最大の喫緊事である。次いで交通運輸の整備、資源の開発、經濟建設が行はるべき物と信ずる。何れもが大事業であつて容易ならずと思ふが人の不足が痛感された。特に智能と技術とは著しく乏せる様に見受ける。ために折角の資源も開發し得ぬ憾がある。對策は急を要するが眞^實たるべきである。斯くて邦人の確實な發展と資源の開発が期し得るのである。教育の問題は更に重要にして難關である。あの民衆をして理解せしめ、向上せしめ、協力せしむる爲めには最後は教育に俟つ外はないと信ずる。

三、滿洲國

北京から山海關經由奉天着の経路によつた。先に大連に於て滿鐵經營の施設等によつて滿洲に對する疎備知識を興へられた事は有効であつた。既に建設工作が各方面に亘つて進行しつゝあるが奉天の工業地帯新京の國都の建設等のみを視ても雄大さに一驚し旅行の價値は充分に認められる。

イ、奉天 鐵西地區に於ける大工業地帯の計畫と進行の狀況を見て驚嘆を禁じ得ない。諸種の事情特に位置、水、動力の關係上當然の歸結と感ずる。

ロ、撫順 奉天堀による採炭狀況の見學を許されたが他の各種新興工業が何一つ見學を許されなかつた事は遺憾であつた。各種の中心機關を訪ねて説話を聽き許さるゝ範圍内での資料蒐集に努めた。併せて大國都建設を見た。

ハ、新京 風光の古都が將來の工業都市として更生すべき計畫を知り近郊小豊滿の大水力發電工事の現況を觀察した。

ニ、吉林 近郊小豊滿の多數が住居するが之れに代つて邦人の進出著しきを認める。未だ奉天、新京等の如き現實性はないが北滿の中心地として將來を期待すべきである。

滿洲は既に着々建設途上に在りて至る所活氣の横溢せるは愉快であり驚嘆に値する。時特に時恰も張鼓峰事件に際會して一般に頗る緊張せる状態にあつた。北支から滿洲に入りて第一に目に着いたのは農作物の極めて豊穡なる事であつた。雨量、氣温等にもよる事乍ら治安維持が民衆の福祉に如何に大なる影響を齎すかを痛感させられた。吾々として遺憾であつた事は各種有意義なる新興工業が設立されつゝあるが此の一物をも見學を許されなかつた事で期待を裏切られた事である。

四、朝鮮

平壤と京城を見た。風物に差異は認められるが内地の延長に過ぎぬ。平壤は未だ単なる風光の地に止まる。京城では總督府、朝鮮銀行、殖産銀行等を訪ねて産業事情を總き資料を蒐集したが現場ならざるため感銘は自ら淡き感懐がある。

結言

本旅行は生徒に現地を認識せしむるに尤も適切である。特に事變下緊張性に現地を視た事は精神的に最も効果ありしを確信する。然し經費の關係上その活動を殆ど最小限に制限される事並に折角の好機會にと希望せる見學が充分に許されなかつた事は頗る遺憾であつた。之に關して次の希望を呈出する。

- 1、多数の生徒に充分なる視察研究を遂げしむる爲め旅行補助金を増額され度き事
 - 2、許す限り見學場所を開放さるゝ、樞當路に於て斡旋し且つ充分連絡され度き事
 - 3、希望者に對しては現地に於ける實習を許可せしめられ度き事
- 斯くし得たる充分なる認識の結果始めて確實なる發展が期待し得ると價ずる。
- 以上を以て報告とする。

田 中 裕 穂

日次	月	日	曜	地名	發着時刻	列車番号	宿泊	視察箇所其他
一	七	二〇	水	門司	發着正午	扶桑丸	船中	
二	七	二一	木	酒上	着早朝		大連	大連視察
三	七	二二	金	大連	發着七〇〇			
四	七	二三	土	旅順	發着八〇〇			旅順視察
五	七	二四	日	大連	發着四〇〇	ハス		
六	七	二五	月	天津	發着五〇〇	濱通丸	船中	天津視察
七	七	二六	火	天津	發着(不定)			
八	七	二七	水	北京	發着(不定)			
九	七	二八	木	北京	發着七二〇	四ノ九		北京視察
一〇	七	二九	金	北京	發着七二〇			
一一	七	三〇	土	北京	發着七二〇			
一二	七	三一	日	承德	發着九二〇			承德視察
一三	八	一	月	承德	發着九二〇			
一四	八	二	火	承德	發着七三〇			奉天視察
一五	八	三	水	撫順	發着八五〇			撫順視察
一六	八	四	木	新東京	發着八〇〇			
一七	八	五	金	新東京	發着九二〇			
一八	八	六	土	新東京	發着九二〇			
一九	八	七	日	吉林	發着四四六			吉林視察
二〇	八	八	月	奉天	發着七三五			
二一	八	九	火	平壤	發着九二〇			平壤視察
二二	八	一〇	水	平壤	發着九二〇			
二三	八	一一	木	平壤	發着九二〇			
二四	八	一二	金	平壤	發着九二〇			
二五	八	一三	土	平壤	發着九二〇			
二六	八	一四	日	平壤	發着九二〇			
二七	八	一五	月	平壤	發着九二〇			
二八	八	一六	火	平壤	發着九二〇			
二九	八	一七	水	平壤	發着九二〇			
三〇	八	一八	木	平壤	發着九二〇			
三一	八	一九	金	平壤	發着九二〇			
三二	八	二〇	土	平壤	發着九二〇			
三三	八	二一	日	平壤	發着九二〇			
三四	八	二二	月	平壤	發着九二〇			
三五	八	二三	火	平壤	發着九二〇			
三六	八	二四	水	平壤	發着九二〇			
三七	八	二五	木	平壤	發着九二〇			
三八	八	二六	金	平壤	發着九二〇			
三九	八	二七	土	平壤	發着九二〇			
四〇	八	二八	日	平壤	發着九二〇			
四一	八	二九	月	平壤	發着九二〇			
四二	八	三〇	火	平壤	發着九二〇			
四三	八	三一	水	平壤	發着九二〇			
四四	八	三二	木	平壤	發着九二〇			
四五	八	三三	金	平壤	發着九二〇			
四六	八	三四	土	平壤	發着九二〇			
四七	八	三五	日	平壤	發着九二〇			
四八	八	三六	月	平壤	發着九二〇			
四九	八	三七	火	平壤	發着九二〇			
五〇	八	三八	水	平壤	發着九二〇			
五一	八	三九	木	平壤	發着九二〇			
五二	八	四〇	金	平壤	發着九二〇			
五三	八	四一	土	平壤	發着九二〇			
五四	八	四二	日	平壤	發着九二〇			
五五	八	四三	月	平壤	發着九二〇			
五六	八	四四	火	平壤	發着九二〇			
五七	八	四五	水	平壤	發着九二〇			
五八	八	四六	木	平壤	發着九二〇			
五九	八	四七	金	平壤	發着九二〇			
六〇	八	四八	土	平壤	發着九二〇			
六一	八	四九	日	平壤	發着九二〇			
六二	八	五〇	月	平壤	發着九二〇			
六三	八	五一	火	平壤	發着九二〇			
六四	八	五二	水	平壤	發着九二〇			
六五	八	五三	木	平壤	發着九二〇			
六六	八	五四	金	平壤	發着九二〇			
六七	八	五五	土	平壤	發着九二〇			
六八	八	五六	日	平壤	發着九二〇			
六九	八	五七	月	平壤	發着九二〇			
七〇	八	五八	火	平壤	發着九二〇			
七一	八	五九	水	平壤	發着九二〇			
七二	八	六〇	木	平壤	發着九二〇			
七三	八	六一	金	平壤	發着九二〇			
七四	八	六二	土	平壤	發着九二〇			
七五	八	六三	日	平壤	發着九二〇			
七六	八	六四	月	平壤	發着九二〇			
七七	八	六五	火	平壤	發着九二〇			
七八	八	六六	水	平壤	發着九二〇			
七九	八	六七	木	平壤	發着九二〇			
八〇	八	六八	金	平壤	發着九二〇			
八一	八	六九	土	平壤	發着九二〇			
八二	八	七〇	日	平壤	發着九二〇			
八三	八	七一	月	平壤	發着九二〇			
八四	八	七二	火	平壤	發着九二〇			
八五	八	七三	水	平壤	發着九二〇			
八六	八	七四	木	平壤	發着九二〇			
八七	八	七五	金	平壤	發着九二〇			
八八	八	七六	土	平壤	發着九二〇			
八九	八	七七	日	平壤	發着九二〇			
九〇	八	七八	月	平壤	發着九二〇			
九一	八	七九	火	平壤	發着九二〇			
九二	八	八〇	水	平壤	發着九二〇			
九三	八	八一	木	平壤	發着九二〇			
九四	八	八二	金	平壤	發着九二〇			
九五	八	八三	土	平壤	發着九二〇			
九六	八	八四	日	平壤	發着九二〇			
九七	八	八五	月	平壤	發着九二〇			
九八	八	八六	火	平壤	發着九二〇			
九九	八	八七	水	平壤	發着九二〇			
一〇〇	八	八八	木	平壤	發着九二〇			

H-0552

0248

61

大阪外國語學校

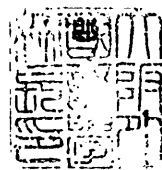


文化
部
文
化
課
第
九
課
第
九
號

昭和十三年十二月二十六日

第一課之三

大阪外國語學校校長 葉山萬次



昭和十三年十二月二十六日

手
字
一

外務省文化事業部長 三谷隆信 殿

滿洲國視察旅行報告書提出ノ件

拜啓愈々御清穆之段奉慶賀候
陳者本年夏期休業中當校生徒ノ滿洲國視察旅行實施致シ候際ハ
御高配ニ依リ所期ノ目的ヲ遂ゲ多大ノ裨益ヲ得候段奉深謝候御
來示ニ基キ視察報告書別便ヲ以テ及御送附候間可然御取計相煩
度此致得貫意候 敬 具

記

引率教官報告書附旅行費計算書
生徒報告書

以上

H-0552

0249

滿洲國視察旅行報告書（教官側）

滿洲農業移民に就て

支那語部引率教官教授 吉野 美彌雄

滿洲旅行報告書

蒙古語部引率教官教授 楠 松 源 一

以上

大阪外國語學校

日本標準規格 B4 (257×361mm)

H-0552

0250

滿洲國視察旅行報告書（生徒側）		支那語部第三學年	
松花江を中心とする北滿水運の現状	馬越重市		
日本人、支那人	畑忠喜		
中支に拾ふ	平田正典		
滿洲を旅行して	伊地智善繼		
滿洲帝國協和會	岩倉利八		
支那人は果して慢々のなりや	鈴木章		
滿洲旅行雜感	田中登喜雄		
滿洲に於ける滿洲國人と日本人	由村伊勢春		
蒙古語部第三學年			
赤峰承德を中心とする熱河省經濟事情	安達一郎		
錦州を中心とする羊毛産業	足立昌平		
大阪外國語學校			
滿洲旅行報告書	合田健二		
滿洲國農産に對する一考察	松尾惠善		
熱河省の首都承德の新相貌	島津亮		
滿洲國興安省に於ける蒙古青年教育の現状と將來性に就きて	和田壽一郎		
	以上		

日本標準規格 B4 (257×361mm)

H-0552

0251

大阪外國語學校支那語部

滿洲旅行團旅費決算報告

收入之部

一金壹千貳百參拾圓也

内譯

一金參百貳拾圓也

外務省補助金 生徒八人分
一人金四拾圓

一金貳百圓也

同 上 引率教授一人分

一金八拾圓也

學校ヨリ團費補助

一金六百參拾圓也

團員九人ヨリ徴收一人金七拾圓

支出之部

一金壹千貳百參拾圓也

内譯

一金四百參拾五圓六拾錢

汽車賃 大阪—京城—圖們—新京
哈爾濱—齊々哈爾—奉天

一金貳拾九圓五拾錢

急行券 大連

一金拾七圓五拾錢

京城(遊覽バス、馬車、多ク)

一金壹圓九拾錢

清津 同

一金五圓貳拾五錢

吉林 同

一金拾參圓

新京 同

一金貳拾圓九拾錢

哈爾濱 同

一金貳圓七拾五錢

齊々哈爾 同

一金壹圓八拾錢

兆南 同

一金貳圓

鄭家屯 同

一金貳拾四圓七拾錢

奉天 同

一金拾八圓

大連 同

1930 (四三九号)

H-0552

0252

一金貳拾四圓	宿泊料 清津一泊
一金貳拾六圓五拾錢	同 吉林一泊
一金五拾參圓	同 新京二泊
一金五拾五圓五拾錢	同 哈爾賓二泊
一金四拾圓	同 齊々哈爾二泊
一金拾五圓	同 洮南一泊
一金貳拾六圓五拾錢	同 鄭家屯一泊
一金四拾九圓五拾錢	同 奉天二泊
一金四拾五圓	同 大連二泊
一金九拾圓	祝儀 茶代
一金拾參圓	車中食費(清津一吉林食二)
一金八圓	同 吉林
一金四圓	同 (哈爾賓一齊々哈爾)
一金七圓七拾錢	手荷物一時預リ及運搬費
一金五圓	寫真材料買入金
一金貳圓	通信費
一金參圓貳拾九錢	藥代
一金壹圓	奉天同善堂寄附金
一金拾圓	新京ニテ記念寫真代
一金壹圓八拾五錢	入場料及觀覽料
一金壹百參拾六圓八拾錢	大連一神戸間汽船賃
一金參拾九圓四拾六錢	剩餘金團員ニ割戻高
	(以上)

1700 (四三九)

H-0552

0253

滿洲旅行會計報告書

大政外國語學校 蒙古語部旅行團

總收入 九百八十円

内譯 生徒一人、釀出金額百円、六人分 六〇〇.〇〇

生徒一人、外務省補助額百円、六人分 二四〇.〇〇

引卒業教師へ、外務省補助額二百円中 一四〇.〇〇

(但し残金百円ハ別ニ計算セリ)

總支出 九百八十円

内譯

七月三十一日

藥品、寫眞、ライ公其他購入費 二五〇.〇

大政大連間汽車汽船賃 一〇九.一八

船中ホリイ心付 六〇.〇

船中及門司ニテノ飲食費 二一.〇〇

七月二十四日

大連ニテ車馬賃 七.〇〇

晝食費 六.〇〇

七月二十五日

大連奉天間汽車賃 三三.三五

奉天ニテ車馬賃 一〇.〇〇

黄手喇嘛へ謝禮金 一五.〇〇

雜費 五.〇〇

七月二十六日

奉天新京間汽車賃 二六.三二

印

七月二十七日	新京三車馬賃	一二〇〇
	宿料二泊代及心付	三二〇〇
	雑費	六〇〇
七月二十九日	新京白城子間汽車賃	二七七七
	車中晝食代	五五〇
	白城子三泊代及心付	三〇〇〇
七月三十日	白城子至五節廟間汽車賃	六九七
	五節廟三雑費	三〇〇
八月一日	五節廟通遼間汽車賃	三八四三
	車中二泊食費及雑費	二五〇〇
八月二日	通遼三車馬賃	五〇〇
	雑費	一〇〇〇
八月四日	通遼大虎山間汽車賃	二二一四
	車中食費	八五〇
	大虎山三泊代及心付	二三〇〇
	雑費	三二〇
八月五日	大虎山承德間汽車賃	四五四七

船屋印

H-0552

0255

車中三箇ノ飲食費	二一〇〇
八月六日	
承德三車馬賃	一七、五〇
離宮喇嘛手等入場料及心付	五〇〇
承德三三泊代及心付	六〇〇〇
八月八日	
承德大連間汽船賃	八九七
八月十日	
大連大改間汽船汽車賃	一〇九、八
八月十三日	
利録金 金圓員分配高	一、二六九、三
尚引卒業教師残金六十月ノ處分在如シ	
大連行汽船ホーイ心付	三〇〇
大連三卒業生御禮費	六〇〇
奉天三草子喇嘛(別ニ禮金)	五〇〇
卒業生一ノ御禮費	一〇〇〇
奉天三洗濯代	二〇〇
新京三交通費及図書購入代	一五〇〇
白城子三柵館へ心付	三〇〇
王爺廟三卒業生御禮費	一〇〇〇
大虎山三柵館へ心付	二〇〇
承德三寧公費	四〇〇

船頭印

H-0552

0256

御查收相成度此段申進ス

追テ参加生徒八名トシテ視察手當御請

求相成タルニ拘ラス旅行決行者僅ルニ二

名ニ過キサルハ餘リニ豫定計更ト艱難スル

次第ニ付計更ハ際ハ希望者ニ對シ充分

御調査相成様致度此ノ段申添フ

公 信 案

外 務 省

主信	/	/
附 甲		
乙		
丙		
丁		
備考	61	

14.1.25

米内...

昭和三十四年正月廿三日發達	文書課發送
主任 第一課長	文化事業部長
昭和十四年正月廿三日附屬	文化一普通部 第二六號
三谷文化事業部長	山口高等商業學校長
岡本一郎	山口市
領收證書送付ノ件	
昭和三十二年十二月二十八日附貴信ヲ以テ御送	
付ニ係ル貴校支那貿易科生徒滿洲視	
察手當返納金貳百四拾圓也日本銀行	

23 70

H-0552

0257

公
信
案

外
務
省

(別紙領收證書一通同封送付ノコト)

以上

H-0552

0258

H-0552

0259

公 信 案

外 務 省

小切手(額面金貳百四拾圓也)一葉
同封送付致シタルニ付納入方可然御
取計相成度

以上

(別紙返納告知書及金券同封送付コト)
(金券出納掛保管)

發信用執務用		主信 / /		附 甲 /		乙 /		丙 /		丁 /		備考 6/	
		14.1.25		14.1.26									
公 信 案		名 件		名 人 信 受		化 一 普 通 密 第 一 三 號		主 任 第 一 課 長 屬		昭 和 十 四 年 壹 月 拾 四 日 附 附 屬		文 書 課 長	
外 務 省		返納告知書及返納金送付ノ件		日本銀行		昭 和 十 四 年 壹 月 拾 四 日 附 附 屬		主 任 第 一 課 長 屬		正 校 (原 稿)		別 紙	
		小口高等商業學校教授田中稻穂、 返納金貳百四拾圓也ニ對スル別紙返 納告知書及第百銀行小口支店振出		文化事業部		附 屬		昭 和 十 四 年 壹 月 拾 四 日 附 附 屬		正 校 (原 稿)		金 券 添 付	
		14 56										14.1.17	

加路生八名トシテ視察手
 多ク請求シテ係ラズ旅行
 法行ニ際シテ僅カニ名多ク
 加シテノミテ過手教ノ不足
 加者ヲ生シテ計画ノ際、社
 調査租漏ト認メテ付金
 收込ニ付、今校ニ注意ス
 ンコト、致ス

化事業部第一課長
 股
 天入ノ件
 伊藤 渡邊
 19.1.12
 事業部

出納掛
 庚申四二二号

米内山
 社

要再回

昭和十三年七月中山口高等商業學校支那貿易科生徒滿洲視察手當ト
 シテ指導者一名金貳百圓也生徒八名分金參百貳拾圓也(一名ニ付金
 四拾圓也)計金五百貳拾圓也ヲ昭和十三年度對支文電事業特別會計
 事業費ノ項講演及視察費ノ目ヨリ支出同校教授田中稻穂ニ交付シタ
 ル處右視察旅行決行ニ際シ參加學生二名ニシテ病氣及家事ノ都合等
 ニ依リ不参加者六名有之タルニ付其ノ分金貳百四拾圓也返納方別紙
 ノ通同校々長岡本一郎ヨリ申出アリタルニ付定額ニ戻入方御取計相

外務省

(日本標準規格JIS)

H-0552

0260

Handwritten notes in Japanese, including the name '米垣' (Mikabe) and other illegible characters.

會計課長了

收入支出掛

検査掛

出納掛

米内山

要再回

昭和十四年一月七日

文化事業部第一課長

會計課長 殿

滿洲視察手當戻入ノ件

昭和十三年七月中山口高等商業學校支那貿易科生徒滿洲視察手當トシテ指導者一名金貳百圓也生徒八名分金參百貳拾圓也(一名ニ付金四拾圓也)計金五百貳拾圓也ヲ昭和十三年度對支文化事業特別會計事業費ノ項講演及視察費ノ目ヨリ支出同校教授田中稻穂ニ交付シタル處右視察旅行決行ニ際シ參加學生二名ニシテ病氣及家事ノ都合等ニ依リ不参加者六名有之タルニ付其ノ分金貳百四拾圓也返納方別紙ノ通同校々長岡本一郎ヨリ申出アリタルニ付定額ニ戻入方御取計相

外務省

日本標準規格 B5

14.1.9

伊藤

13.112 事業部

14.1.9

H-0552

0261

成度

参考

一、小切手振出日附及番號

昭和十三年七月二十七日 第一一五號金五百貳拾圓也ノ内

一、戻入金額 金貳百四拾圓也

一、返納人 山口高等商業學校教授田中稻穂

一、拂込場所 東京

以上

外務省

(日本標準規格B5)

H-0552

0262



文化事業部

第三課 三 庫

昭和十三年十二月二十日 林 房雄 印

山口高等商業學校長 岡本 一郎

昭和十三年十二月廿日



外務省文化事業部長 三 谷 隆 信 殿

本月十四日付教發一一二號ヲ以テ本校支那貿易科生徒滿州見學旅行報告書提出致置候處病氣及家事ノ都合ニ依リ不参加者六名分補助金貳百四拾圓也別紙安田銀行宛小切手ヲ以テ御返金致候條御查收被成下度候
追テ御落手ノ上ハ領收證御送付被成下度候

あふと

61

H-0552

0263



又
郡
三
峯
南
廿
四
日
見
参
見

八月二十三日

H-0 5 5 2

0264